



## 日本遺伝学会とは

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>

日本遺伝学会の前身は“日本育種学会”であり、1920年6月に本学会として正式に成立した。1920年はイギリスの遺伝学会の設立と同じ年に当たっている。2011年8月の会員数は998名である。

1928年10月に日本遺伝学会第1回大会が九州帝国大学農学部で開かれて以来、1945年を除いて、毎年1回の大会が開催されている。今年（2011年）は第83回大会を京都大学で開催した。出版物としては、1921年に“遺伝学雑誌”第1巻第1号が出版され、“*Genes & Genetic Systems*”として現在に至っている（2011年、第86巻）。

初代の遺伝学会長は池野成一郎（東京帝国大学農学部教授）であり、その後、田中義麿、木原均、木村資生らが歴任し、2009年からは五條堀孝が第29代会長を務めている。

## 男女共同参画の推進

[http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/danjyo\\_ks.html](http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/danjyo_ks.html)

日本遺伝学会では、2007年に男女共同参画推進担当特別幹事をおき、男女共同参画推進特別委員会を設置、同年に男女参画学協会連絡会に加盟した。

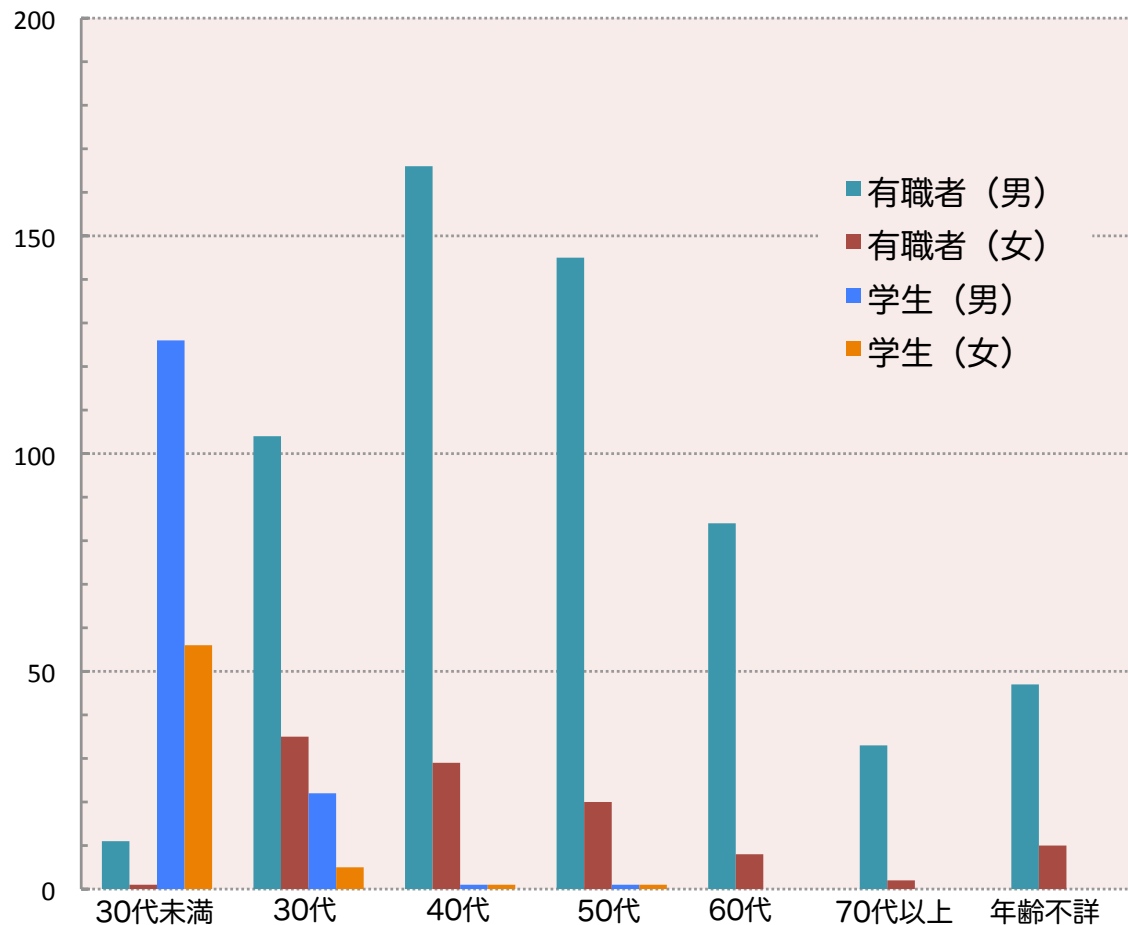
学会ホームページ内に男女共同参画のページを立ち上げ、随時、活動状況を報告している。学会大会時の託児への支援、およびランチオンワークショップの開催を継続的に行っている。

男女共同参画推進担当特別幹事  
松浦 悦子（お茶の水女子大学）

2011年度男女共同参画推進特別委員会委員

岩瀬 峰代（総合研究大学院大学）  
大坪 久子（日本大学）  
川岸 郁朗（法政大学）  
久原 篤（甲南大学）  
高橋 文（国立遺伝学研究所）  
篠原 美紀（大阪大学）  
町田千代子（中部大学）

## 学会員の動向



2011年8月現在，普通会員908名のうち，女性は168名(18.5%)である。有職者に占める女性の割合が15.1%であるのに対して，学生会員では29.6%で，ほぼ倍にあたる。この若い世代のキャリアアップをサポートし，いかに育てていくかが将来に向けての課題である。

# 男女共同参画ランチオン ワークショップの開催

2008年より「優れた科学の芽を  
皆でサポートするために」のタイ  
トルの下で開催している。第83回  
大会では、京都大学女性研究者支  
援センターと共催し、約60名の参  
加があった。



日本遺伝学会 第83回大会  
男女共同参画公開ランチオンワークショップ

9月21日(水) 12:15~13:45

京都大学農学部 総合館3階 W314

## 優れた科学の芽を 皆でサポートするために ~バイアスを越えて~

- 1 はじめに  
五條堀 孝 日本遺伝学会会長
- 2 “Beyond Bias and Barriers”  
- 研究者をとりまく「偏り」と「障壁」を知る -  
大坪 久子 日本大学薬学部薬学研究所  
元日本大学女性研究者支援推進ユニット長
- 3 女性研究者支援・システム改革加速事業の  
推進と京都大学の取組  
稲葉 カヨ 京都大学大学院生命科学研究科  
京都大学女性研究者支援センター長
- 4 総合討論
- 5 おわりに  
遠藤 隆 日本遺伝学会第83回大会委員長

無料ランチ  
先着100名様

共催

日本遺伝学会男女共同参画推進特別委員会  
京都大学女性研究者支援センター



はじめに、今回のテーマである研究者をとりまく『偏り』と『障壁』について、大坪久子会員から豊富なデータをもとにした話があった。女性は男性に比べると独立を躊躇する傾向にあるといった女性自身の意識のバイアスがあることや、組織構成員の男女比によって無意識のバイアスがあることなどについて、具体的な例が示された。

京都大学女性研究者支援センターの稲葉カヨ先生には、女性研究者支援モデル育成プログラムなどの政策の実施状況、および京都大学での具体的な活動（保育所の設置、広報・啓発活動、メンター制によるロールモデルの提示、段階的研究支援など）について紹介していただいた。また、研究者の女性枠採用の実施についても、いくつかの大学の例や京都大学独自の取組みが示された。

これらの講演を受け、参加者からは多くの意見がアンケートの回答として寄せられた。

「困難さを改めて認識した。女性研究者に顕著な結果と見えるかもしれないが、男性でも同様な問題も多いように思われる。教育レベルでも男女差をなくすことが先決と感じた。」 「女性の研究者を増やす以前に、研究者として働くことが魅力的である仕組みをつくらなければ、日本のサイエンスの未来はない。」 「男性への支援と研究システム全体の改善を進めることが、女性研究者の増加や地位向上にもつながると思う。」 「男女を問わず、指導者育成という視点をもっと意識すべきという自覚が促された。」 といった意見は、男女共同参画の名称どおり、性別に関わりなく、参加者が自身の問題としてとらえていることを示している。

過去のワークショップでの議論の蓄積も踏まえ、女性研究者に対する見えないバリアの問題を含めて、女性研究者をとりまく問題は女性に限ることではない、という認識が形成されてきていると思われる。女性研究者に対してのみ特別措置を考えるのではなく、ポスドク問題（就職）や介護問題（医療）を含めて研究者全体の問題としてとらえ、協力して解決できる問題から検討（アクション）を始める方策が必要である。



## ウェブアンケートによる属性調査の実施

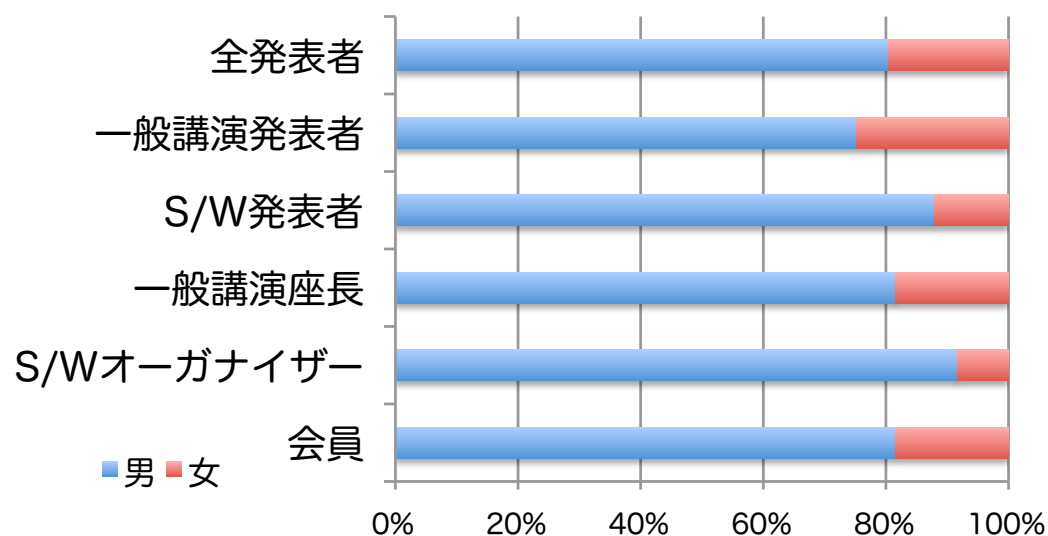
昨年度に続いて、第83回大会の参加登録時にウェブアンケートによる属性調査を行った。回答者の各年齢層について、女性の割合は会員全体における割合よりも高い傾向にあり、女性のアンケートへの関心の高さがうかがえる。また、身分の調査結果からも、男女ともに若い世代の回答者が多く、男女共同参画の問題に関心をよせていることが示されている。

大会での発表等については、全発表者における女性の割合は会員全体における割合とほぼ同じであるが、シンポジウムやワークショップでの発表者は、一般講演の発表者と比べると低く、さらに、オーガナイザーではかなり低い。若い世代の女性会員の割合(30%)は比較的高く、その世代からの参加や発表が活発であるのに対して、有職者における女性の割合(15%)が低いことが、この結果にも影響を及ぼしていると考えられる。

| 年齢    | 男性<br>(人) | 女性<br>(人) | 回答者の<br>各年齢層に<br>おける女性<br>比率 (%) | 会員の<br>各年齢層<br>における女<br>性比率 (%) |
|-------|-----------|-----------|----------------------------------|---------------------------------|
| 30代未満 | 17        | 8         | 32.0                             | 29.4                            |
| 30代   | 16        | 6         | 27.3                             | 24.1                            |
| 40代   | 20        | 6         | 23.1                             | 15.2                            |
| 50代   | 7         | 2         | 22.2                             | 12.6                            |
| 60代   | 7         | 3         | 30.0                             | 8.7                             |
| 70代以上 | 1         | 0         | 0                                | 5.7                             |
|       | 73%       | 27%       |                                  |                                 |

参加登録者 314名  
回答者 93名

|               | 男性 | 女性 |
|---------------|----|----|
| 学部生           | 1  | 0  |
| 大学院生・修士       | 5  | 4  |
| 大学院生・博士       | 8  | 4  |
| ポスドク(大学・研究機関) | 11 | 3  |
| 技術員           | 1  | 0  |
| 助教(大学・研究機関)   | 10 | 5  |
| 講師(大学)        | 1  | 2  |
| 准教授(大学・研究機関)  | 15 | 2  |
| 教授(大学・研究機関)   | 10 | 2  |
| 主任研究員         | 1  | 2  |
| ユニット長         | 0  | 1  |
| 取締役クラス        | 2  | 0  |
| その他           | 2  | 0  |
| 選択しない         | 1  | 0  |
| 合計            | 68 | 25 |







## 大会開催時の男女共同参画支援

これまで大会開催時には、保育室の設置、地域の保育園の一時保育の斡旋などにより、子供を連れた学会参加を支援してきたが、本学会での利用数は限られていた。

第83回大会の開催に際しては、保育室の設置の他、新たな支援策を試みた。子供を連れずに参加する場合に家庭等にあって保育に必要な費用、あるいは、通常は自分が行っている介護を委託するために必要な費用などを支援することによって、学会参加を可能にするというものである。今後さらに、“本当に必要な支援”を有効に行えるよう、支援方法の検討を進めていく。